

## 参加各施設で診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問合せ先にご連絡下さい。

① 研究課題名	上部尿路上皮癌における抗癌化学療法が必要な症例選別を目的としたリスク分類の構築（多施設共同研究）		
② 実施予定期間	2015年 4月 1日 ～ 2018年 3月 31日		
③ 対象患者	下記対象期間中に山口大学医学部附属病院および山口ウロオンコロジーグループ所属施設（別表1）、大阪医科大学附属病院、奈良県立医科大学附属病院および奈良泌尿器疾患治療研究グループ所属施設（別表2）および島根大学医学部附属病院で腎尿管全摘術を行い病理組織学的に上部尿路上皮癌と診断された腎盂尿管癌患者さん。		
④ 対象期間	山口大学医学部附属病院および山口ウロオンコロジーグループ所属施設（別表1）；2000年1月1日～2009年12月31日 大阪医科大学附属病院；1996年10月1日から2013年7月1日 奈良県立医科大学附属病院および奈良泌尿器疾患治療研究グループ所属施設（別表2）；1995年10月1日から2013年12月31日 島根大学医学部附属病院；1995年10月1日から2013年12月31日		
⑤ 実施診療科	泌尿器科		
⑥ 研究責任者	氏名	松山豪泰	所属 泌尿器科
⑦ 使用する資料等	診療録情報；生年月日、性別、術前検査所見、手術方法、手術所見、摘出標本所見、術後経過、術後治療、最終転機等の情報。		
⑧ 研究の意義	腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術前に、抗がん化学療法が必要となる患者さんを同定し、今後の治療に役立てます。		
⑨ 研究の目的	進行性膀胱癌では、予後改善効果が証明された術前化学療法も上部尿路上皮癌においては明確なエビデンスがありません。また、上部尿路上皮癌では腎摘除前の腎機能が良好な状態での術前化学療法が望ましいのですが、術前化学療法を選択するための判断は今のところ困難です。そこで術前因子をもちいた周術期抗癌化学療法が必要な患者さんを予測するモデルを構築することを目的に本研究を行います。		
⑩ 研究の方法	後ろ向き研究（生体試料を用いない探索的研究）で、本研究参加施設において、診療録から情報を収集し、生年月日以外の個人情報伏せた状態で山口大学医学部附属病院に集め解析を行います。		
⑪ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2015年 3月 25日	
⑫ 結果の公表	学会発表又は論文発表にて結果を公表します。		
⑬ 個人情報の保護	情報は連結可能匿名化を行い、本研究を実施します。		
⑭ 知的財産権	知的財産権の帰属先は本研究参加施設からなる研究グループです。		

⑮ 研究の資金源	山口大学医学部泌尿器科の委任経理金		
⑯ 利益相反	ありません。		
⑰ 問い合わせ先	長尾 一公 山口大学 泌尿器科 助教		
	電話	0836-22-2275	FAX